

レスキューを学び・考え・広げる活動／安芸版実行委員会

1. 「レスコンシーズ安芸版 2」の企画運営

今年8月22日に「第2回レスキューロボットコンテスト・レスキューロボット工作教室」を広島工業大学内で開催しました。

「レスコンシーズ安芸版 2」では、昨年第1回の工作教室に重点を置いた形態を引き継ぎ、さらにレスキュー活動の啓蒙に重点を置くことを意識して、次のような改善を試みしました。

- a. 「レスキュー教室」の開催
- b. 「要救助者の視点」から見た救助技術の評価
- c. 災害現場に重点を置いた新フィールドの検討

「レスコンシーズ安芸版 2」の開催形態は、午前中に「レスキュー教室」、「レスクロ工作教室」を開催し、午後に「レスコンシーズ安芸版 2」を開催する3部構成とし、小学校4年生以上を対象とした親子教室の形をとりました。

コンテスト安芸版 2 は、「宮島編」「山間部編」の2フィールドからなります。

宮島編において、改善点 b. 「要救助者の視点」から見た救助技術の評価を試行しました。具体的には、要救助者のストレッチャーに小型カメラを取り付け、要救助者から見た映像を競技フィールド横のモニターに表示・録画しました。競技終了後、録画した画像を競技者に見てもらいました。

「山間部編」は、土砂崩れを想定したフィールドで、改善点 c. 「災害現場に重点を置いた新フィールドの検討」のコンセプトに基づいて作成しました。



前述の改善点 a. 「レスキュー教室」の開催については、現実のレスキュー現場での活動内容を学んでもらうために、佐伯消防署五日市救助隊にご協力いただき、同隊長を特別講師として「レスキュー教室」を開催しました。

2. 「安芸版 2」での改善点とその評価

当日実施した参加者へのアンケートでは、ほぼ全員から好評な評価をいただきました。

改善点 a. 「レスキュー教室」の開催については、大半の参加者は熱心に話しに耳を傾けていました。今後「レスキュー教室」の方法を見直し、レスキュー技術の啓蒙・教育の効果を上げるように工夫しなければなりません。

改善点 b. 「要救助者の視点」から見た救助技術の評価については、この試みは一定の効果があつたと思われました。今後は競技者への見せ方の工夫や、映像の安定化などの技術的な問題などについて、改善していく必要があります。

改善点 c. 「災害現場に重点を置いた新フィールドの検討」については、これまでのランドマークに重点を置いたフィールド構成から脱却し、自分たちなりに災害救助の技術面を試すフィールドが考えられないか、という観点からフィールドを設計しました。今後はこの仕掛けを通して、どのようにレスキュー活動の難しさを伝えていけるか、方法を探っていく必要があります。

今回、工作教室の時間を大幅に短縮した影響で、参加者の工作時間・工数が減ることに起因するものづくりへの興味の喪失が心配されたが、大半の参加者は今回の工作分量でも満足していました。

